

花きの県別生産出荷概況(6月見通し)

品目	県名	作付面積ha (前年比)	主な品種	6月出荷見込み 千本		主産地	6月のピーク		
				全出荷量	京浜地域		上	中	下
アルストロメリア	青森県	1.96 (100%)		144 (99%)	127 (100%)	常盤 藤崎	40	30	30
	山形県	9.6 (93%)	アバランジェ、エベレスト、ピンクサプライズ、プリマドンナ、レベッカ、レモン他	559 (99%)	218 (99%)	JA山形おきたま JA鶴岡 JAそでうら	40	30	30
スターチス	山梨県	1.2 (100%)	スーパーレ、ディーローズ	8 (100%)	8 (100%)	甲府市	100	0	0

バラ	青森県	1.68 (100%)	アヴァランチェ、エリザ、パレオ、ローテローザ	95 (119%)	48 (120%)	つがる、まべち、新郷	30	40	30	
	秋田県	0.88 (100%)	ローテローゼ、ジュピター、エレガンス他	675	400	あきた湖東、秋田しんせい	30	30	40	
	群馬県	15.3 (90%)	アヴァランチェ、サムライ他多数品種	900 (100%)	605 (100%)	利根沼田、前橋市、甘楽豊岡	35	35	30	
	千葉県		3.6 (100%)	サムライ、ザ・テレサ、ローテローゼ、ノブレス	155 (100%)	125 (100%)	鴨川市、南房総市	35	35	30
			2.4 (84%)	サムライ、アマダ	-	-	茂原市	35	35	30
			0.8 (100%)	ローテローゼ、ロレーナ等	50 (100%)	50 (100%)	神崎町	35	35	30
	山梨県	3.8 (93%)	ローテローゼ、サムライ等	340 (97%)	330 (100%)	笛吹市(御坂町)	35	35	30	
	大分県	6 (100%)	Nシリーズ、Mシリーズ、Jシリーズ、その他各品種	-	-	国東事業部、山香事業部、九重飯田、玖珠九重				

品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
アルストロメリア	一週間ほどの遅れで推移しており、出荷量も少ない。例年であれば、5月の連休中のお荷ピークとなるが、本年はピークらしいピークとはなっていない。	<p>現状 愛知・長野・山形産と各産地で、上旬よりお荷数量が潤沢となり低調な相場展開となった。母の日後は、下位等級から各産地で改植が進みお荷数量が大きく減少した。品種数も徐々に減少し、白・ピンク中心となり、紫・黄色などは少量のお荷となった。</p>
	出荷ピークを過ぎ、また、株の改植が行われていることから、お荷数量は減少している。切り花品質は良好である。	<p>見通し</p> <p>大田花き 愛知・長野・山形産は改植が進みお荷量が落ち着いてくる見込み。白・ピンクが中心のお荷見込みで、品種数は減少してくる見込み。北海道産は徐々にお荷量が増加してくる見込み。品種数も増えてくる予定で、白・ピンク中心に各色お荷見込み。480,000本 @55</p> <p>FAJ 改植が本格化しお荷量減少。販売は、保合相場となる見込み。</p>
		<p>第一花き 業務需要中心の流れ。日持ちも悪くなる時期で品種・品質格差の単価差は出る。@60</p> <p>世田谷花き 東北産がやや増加も全体量は、横ばい。</p> <p>東日本板橋花き 青森・愛知中心のお荷、業務中心の動き。</p> <p>東京フラワーポート 改植が始まり暖地物減少。長野・青森産お荷増加。前年並みの数量。</p>
スターチス	生育は順調。	<p>現状 シヌアータ系では暖地では天候よく気温も高かった為、お荷量は増加となった。高冷地は冷え込みの影響で1週間程度の遅れがあり少量のお荷となった。需要面では、ゴールデンウィークに向けた動きが多少あった程度でその他大きな需要はなく、厳しい取引となった。ハイブリッド系は上位階級主体で安定したお荷となった。大きな需要もなく落ち着いた取引となった。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き シヌアータ系は長野、群馬の品質の良いものが徐々に数量まとまる見込み。ハイブリッドは北海道中心に各色増加傾向となる。需要面で大きな需要は無いが、高冷地ものは多少引き合いがある見込み。</p> <p>FAJ 北海道、和歌山、山形等よりお荷。大きな需要はないものの、堅調な引き合いとなる見込み。</p> <p>第一花き 産地の切り替わり時期、特に大きな需要も無い月でお荷状況によるが概ね例年並みの流れ。シヌアータ@40 HB@55</p> <p>世田谷花き 長野・山形産が中心のお荷となる。2L@50～</p> <p>東日本板橋花き 母の日も終わり、暖地は減ってくる。高冷地も定植の遅れで少ない。シヌアータ@70～30 HB@200～20</p> <p>東京フラワーポート 福島・群馬産が中心のお荷。やや遅れがあるが、例年並みの数</p>

バラ	原油の高騰、寒波の影響で10日～2週間ほどの遅れ。現在は一番花の出荷。	
	秋田しんせいは4月3日～4日にかけての爆弾低気圧の影響により、施設に被害を受け出荷量が微減している。また生産動向としてはSP系からSD巨大輪プラス採花本数の高い品種へ移行している状況。	
	生育は順調で、品質は概ね良好。平年並みの出荷を予定。冬の低温の影響はなく、生育、品質とも平年並。	現状 母の日は、昨年を上回る入荷量となったことや、前週の連休中に相場が低迷したことにより、昨年より平均単価は下げる結果となった。母の日需要が終わり、需要は落ち着いているものの、入荷量が減少した為、堅調な取引が続いている。
	生育・品質とも良好。6月下旬から一部夏季剪定が始まる見込み。	見通し 大田花き 西南暖地は改植、剪定が進み、高冷地と産地の入れ替わりの時期となる。父の日で黄色系の引き合いがある他は、大きな需要がなく、引き合いは弱い見込み。
	生育は順調で品質も良好。梅雨時期の湿度管理、病害虫発生抑制に努めている。	FAJ 前半は長野・山形・宮城中心に入荷量は増加傾向。安定相場で推移する見込み。 第一花き 各産地改植等を始める時期、ブライダル需要主体の流れで産地・品種による単価差は出る、下位等級の販売は厳しい。SD@55 SP@62
	生育が遅れていたほ場からの出荷が増えてきている。品質は良好。	世田谷花き 入荷量は改植も進んでいる事から、増えていない。高冷地産を中心に動きが見られる予想。 東日本板橋花き 業務需要中心の動き、入荷は日々増えていく見込み、単価は安めか？ 東京フラワーポート 産地の入れ替えで高冷地中心の販売となる。暖地物は改植になるが数量はある。イベント事もなく販売は厳しそう。
	うどんこ病が多少発生している。生育は順調である。	
	出荷の主体は九重飯田、玖珠九重が中心。上位等階級の割合が高い。	